

は「西」という文字の近くにいます。「東を向くためには西にいななければならない」と考えて三、に取り組んでください。
P 205 L 2 「数」、「三」はどちらも「何度も」という意味。

④ ③ ②
L 4 為人(ひととなり)：性格。 L 5 坐：その場において
⑤ 「且」は再読文字なので①と⑤で二回読んでいます。
「且に虜とする所と為らんとす」
→ 再読文字二回目は「ひらがな」で書き下す。

① ④ ③ ②
L 6 且為所虜 ①く⑤は読む順番。「且」は再読文字なので①と⑤で二回読んでいます。
⑤ 「且に虜とする所と為らんとす」
→ 再読文字二回目は「ひらがな」で書き下す。

樊噲、頭髮上指す

P 206 L 1 ①其意常在沛公也：①項荘の気持ちは常に沛公に向かっている(沛公を殺すことで頭がいっぱいだ)

一、**閤** 「甚急」「此迫矣」という短文の表現は、どのような効果を上げているか。：例・隣の家が火事の際に「隣の家が火事なので、消防車を呼んでください」と言うかどうかを考えてみよう。「火事だ!」「きゃー」と言うはずです。

L 6 頭髮上指：とても怒り、興奮し、髪の毛が逆立っている様子。

閤 「覆其盾於地・・・切而啗之」の表現は、どのような効果をあげているか。：樊噲の豪快さ、大胆さ、荒々しさが、それを見ている項羽にどんな気持ちを持たせるか、考えてみよう。

L 11 能：(よくく)：くできる。(可能の「能」)

P 207 L 1 Aすら且つX。B安くんぞY。

・Aという重いものでさえ私はXである。まして、Bという軽いものをどうしてYしようか。

※ここでは、Aに「死」という重いものを挙げ、Bに「大盃の酒」を挙げている。そこで訳は、「私は死という重いものでさえ避けないのに、酒という軽いものをどうして辞めようか、いや、辞めない」となります。

L 2 不能(くあははず)：くできない。

L 7 細説：つまらない者の言うこと、という意味ですが、現在「物語」の意味で使われている「小説」も「つまらない話」という意味です。これは「漢詩文学」と比べて、中国では物語の地位が低かったことからです。

沛公、虎口を脱す

P 208 L 1 奈何(いかん)：どうしようか(疑問)

L 1 大行不顧細謹(死が迫っているときに、細かな儀礼を気にしていても仕方がない)

L 5 亜父(あほ)：「亜」は準ずるもの、次ぐもの、という意味。「熱帯」に次ぐのが「亜熱帯」、「寒帯」に次ぐのが「亜寒帯」、「鉛」に似ているのが「亜鉛」です。

L 10 間行 P 209 L 1 間至軍中 両者とも「ひっそり」「しのんで」という意味があります。スパイのことを「間諜」(ひっそりと謀をする人)といいます。

諸家の思想 莊子 胡蝶之夢

一、「道教」とは：中国において「三教」のうちに数えられる代表的な宗教で、英語では「タオイズム」として世界的に知られています。道教哲学の源は老子と莊子の唱えた「道」と「無為自然」の思想にあります。老子と莊子の思想はあわせて「老莊思想」とも呼ばれます。

※儒教の人為的な教えを否定して、「道」のままに任せて生きることと真理があるとする考え方です。

P 225 L 2 昔者(むかし)：「者」は助字で二字で「むかし」ということに注意！ P 204 L 11 今者(いま)という読みもあります。

L 2 夢に胡蝶と為る(夢の中で胡蝶となった)

L 4 俄然(がぜん)：「俄」は訓読みで「にわか」。急に降ってくる雨を「俄雨」という。

L 6 不知：倒置法で語順が逆になっていることに注意！ 「周之夢く為周与。」までの内容が「不知」(わからない)ということ。

L 7 物化：万物のきわまりない変化。胡蝶であるときの莊周も本物だし、莊周であるときの胡蝶も本物だ。|| 夢も現実も引き続いた同じものだ、ということ。

俳諧 春夏秋冬

一、誤字に注意！ 諧 「階」としないこと。 誤読に注意！ 発句（ほつく）

※切れ字※ 「けり」：詠嘆を表します。慣用句に「決着をつける」「結末を迎える」意味の「けりをつける」という言葉があります。俳句や短歌に詠嘆の助動詞「けり」をつけて締めくくるところからできたと言われています。



貞門俳諧	：松永貞徳
談林俳諧	：西山宗因
蕉風俳諧	：松尾芭蕉
中興俳諧	：与謝蕪村
文化文政期の俳諧	：小林一茶

〔参考〕 月並俳句：正岡子規の批判は、江戸末期の俳諧が、俗受けをねらって模倣と言回しの工夫に終始し、類型に陥っていたからとされる。

蕉門十哲

宝井其角（たからいきかく）蕉門第一の高弟。
 服部嵐雪（はっとりらんせつ）其角とやらんで蕉門の双璧をなす。
 向井去来（むかいきよらい）別荘「落柿舎」を所有。
 内藤丈草（ないとうじょうそう）
 森川許六（もりかわきよろく）画の名人で芭蕉に画を教える。
 杉山杉風（すぎやまさんふう）芭蕉の経済的支援者。
 各務支考（かがみしこう）
 立花北枝（たちばなほくし）「奥の細道」道中の芭蕉と出会い入門。
 志太野坡（したのやば）芭蕉の遺書を代筆。
 越智越人（おちえつじん）「更科紀行」の旅に同行。

二、「雪月花」の句 卯木：卯月（旧暦四月：夏の初め）

「浮き世」の句 井原西鶴『好色一代男』、『世間胸算用』

「奈良七重」の句 全て漢字という特徴があります。読めるようになっておきましょう。「ならしちへしちだうがらんやへざくら」

「月や霰」の句 上田秋成『雨月物語』

◎レポートに出てくる全ての句について、(1) 俳人名（人名は読み書きとともに行けること）、(2) 季語、(3) 季節を覚えておきましょう！